

短歌 (投稿順)

亡夫植えしヒトツバタゴの無垢の白空を圧すごと白雲に似て  
 天空の高原染める赤ピンク盛るポピーの園の賑わう  
 悪しかれと育てる親のあるものか良心欠く男の胸痛む罪  
 落雷の響き渡りて蒸し暑く裕一のいな夏がはじまる  
 突然の地震速報テレビでの番組変わるこのごろ多い  
 弟の形見となりし紫陽花は鮮やかに咲き和ませくれる  
 五月雨の中、里山を駆けまわる辛くも笑うトレイルランナー  
 広島の人影残る石段に核廃絶のサミットの意義  
 研修に参加す神奈川名所の散策に手を添へ呉るる人びとの温情  
 夕暮れにバイオリン音の秩父音頭いやされ余音一日終わりぬ  
 山肌に白く揺れるはアカシヤと教えくれしは今亡き母  
 公会堂皆集まりて元氣良く重りを付けて体動かす  
 愛づる人賑はへばこそ高原を染むるポピーの鮮やかに咲け  
 楽しみな初夏の道東ミルクロード直線十数キロ天空えの道  
 プランターの土半量を入れ替へて夏を彩るベチュニアを植う

皆野 根岸 詩子  
 三沢 眞下 杏子  
 皆野 萩原 初恵  
 皆野 石原 達也  
 上日野沢 四方田利男  
 下日野沢 浅見 豊子  
 皆野 大澤 貴夫  
 三沢 新井 民子  
 三沢 新井 民子  
 国神 藤原マキ子  
 下田野 新井 節子  
 皆野 村田ハツ代  
 皆野 打木 昭廣  
 皆野 戸塚喜久雄  
 皆野 引間 万亀

俳句 榎本順江 選 投稿数 17句

短夜や尽きぬ話に明け初めぬ  
 (俳分友人との夜を徹しての尽きない語らいと思えます。気の合う友人同士のお喋り程楽しいことはありません。時間などすっかり忘れて、気が付いたら外は白々としてきました。夜通し語り合える仲間の居る幸せ、良い関係が続きますように。二句目、山法師の白花と書いては、四枚の白いのは苞といい、四枚の苞の中心にある小さな丸いのが花だということを知りました。思いがけず忍者の出現。改めてよく見ると手裏剣によく似ています。城跡に咲いた山法師の花をよく観察され上手く表現された句です。三句目、夜の明けるのが早く、目覚めも早い。起きたばかりの所へもうお客様のチャイムが鳴り、髪のを手ぐしで整えながら玄関へ急ぐ。少々慌てた作者と、客の様子や会話も聞えてくるような句です。城跡に忍者の手裏剣山法師  
 皆野 戸塚喜久雄  
 学窓に「今年も来たか」岩燕  
 皆野 小菅恭青史  
 明け易し手櫛で迎ふ訪問者  
 客十人はしりのメロンさいの目に  
 三沢 眞下 杏子  
 三沢 新井 民子  
 空青しヒトツバタゴの無垢の白  
 皆野 根岸 詩子  
 シヤツ着つつふと見る暦立夏かな  
 新緑や秩父路を行くアニメ電車  
 皆野 藤原マキ子  
 皆野 石原 達也  
 長瀬へ誘う天然氷かな  
 国神 藤原マキ子  
 皆野 村田ハツ代  
 下日野沢 小原 和夫